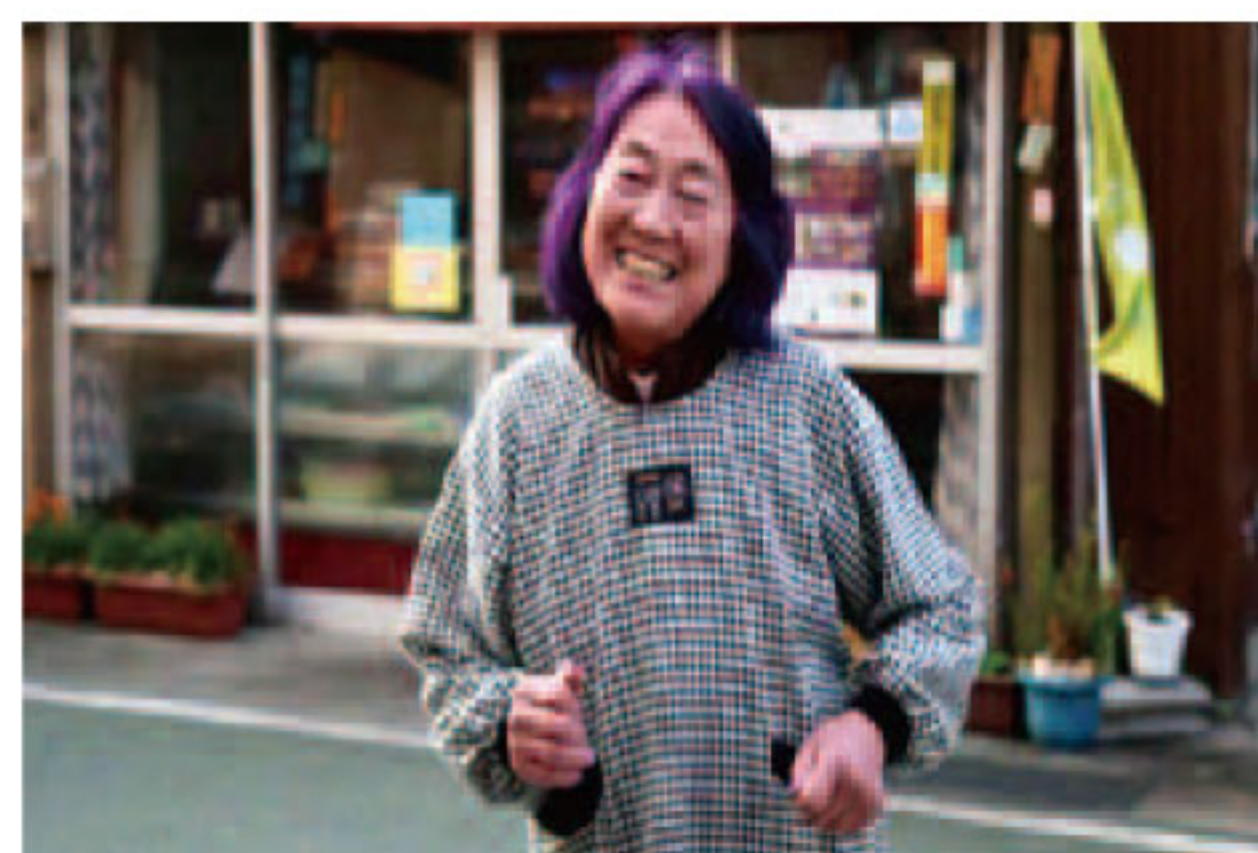


竹田の「可愛い隅」を映画に ハン・ジエ監督 in 長湯

竹田は隅々が細かいものでいっぱい、美術をする人々なら皆が好きになるくらい可愛い隅がある町でした。昔のものがたくさん残っている静かな町の隅々を歩いてみると、ある瞬間、時間が止まっている気がしたりしました。私はたまたま通り過ぎる人々を見て、頭の中で彼らに200年前の伝統衣装を着せてみては、話を作ったりしました。すべてのものがとてもゆっくり動くようでした。

私は世界の隅々に住んでいるそれぞれの人が生きている文化と社会に関心があります。私は長編映画だけが映画だとは思いません。いつかは長編映画を作りたいと思うけれど、その時が来るまでは多くの人に出会って、彼らの生き方を観察して、話して、人生を学びたいと思います。

そして私は今、「昔々、遠い昔の長湯で」のような作業を、全世界の小さな村の連作シリーズとして作るつもりです。そういう作業の中に彼らの文化と生き方、楽しみなどをそのまま詰め込むつもりです。もちろん、お金を稼ぐことができない作業なので簡単ではありませんが、このような絶え間ない努力を通して成長したいと思います。(広報たけた「ハン・ジエ監督手記」より)



大学院生監督の長湯温泉撮影記

2度目の日本、初めての九州。「多くの人々と出会いたい」。それがハン・ジエ監督(26)の念願だった。映画祭で短編映画の製作を依頼され、10月29日から閉幕まで現地に2週間滞在した。彼女の念願は叶えられたのか?

滞在1週間目。ハンさんは不安だった。「観光宣伝の映画を撮りに来たんじゃない。この街で何かを感じて、それを映像にしたい」。周囲の期待とのズレを感じながら、「竹田は美しい街だ」と感じていた。

古い街並み。風。木と山が続く。そして温泉……。短編1本目の「LOST IN TAKETA」には、自身が出演した。レンタカーが故障し立ち往生した韓国女性物語。竹田城下町の街並みを、トランクを引きずりながら歩く姿に、若い旅人の心象風景

が重なる。

2本目「長湯温泉の人々」は愉快的傑作だ。ある日、温泉街を流れる川の中にある露天湯「ガニ湯」に浸かっている男女2人を見つけた。もちろん素裸だ。さっそくカメラに収めた。Vサインまでしてくれた。

そこに登場する「勇気ある男」。撮影用車両を提供してくれた赤川温泉の池田高明社長だ。サムライ姿で楽しく踊る。続々と踊る地元の人々、そして猫、木と山……。地元小学生の笑顔がとてもキュートだ。

13日の映画祭シンポジウムで作品は公開された。「(男女の混浴シーンは)演出じゃありません。偶然に見つけたんです」とハンさん。浴衣姿で出演した映画祭事務局次長の佐藤美樹さんは「かなりのテイク数をこなしました。(演技指導は)厳しかった」と語る。

ハン監督はソウル漢陽大映画学科の学生だった

2008年、短編映画「車を止めて」で全州国際映画祭短編部門最優秀賞を受賞した。現在は韓国総合芸術学校大学院生(休学中)。将来を期待される映像作家だ。

長湯温泉で作った作品は、地元だけでなく映画祭の観客にも好評だった。映画がYouTubeにアップされると、東京から「温泉のような温かさを感じる映画。ときどき見返して、また、ぬくぬくとしたい」というコメントが届いた。

2週間の滞在中には農家民泊も体験した。こたつや畳などがある日本の伝統的な家屋で生活するのは初めてだった。「竹田は寒かったが、人々の温かさに触れた。すごくいい経験になった」とハンさん。同行した撮影監督のイ・ソヒョンさんは「ここで一生暮らしたい」と語った。(文・赤池すずか、森本絵美莉)